

母と私の間の矛盾

私の家族

私の家は、母方の祖父母から続く自営業をしている。母が父と結婚し、二人で事業を継いだのだ。私と兄が生まれたとき、自営業のため休む時間もなく、母は私を背負って働いていた。家に帰っても休むことなく家事に追われる日々。そんな日常が続き、母は体調を崩すことも頻繁にあった。父も受け継いだ事業と連動させて新しいビジネスを始めたことで、今もなお、二人とも忙しい毎日を送っている。

そんな私の家は、典型的な日本の家族だ。共働きにもかかわらず、母が家事をして、父は家事を一切手伝おうとしない、いわば亭主関白。母は、仕事が終われば夜ご飯を作り、父は仕事が終われば趣味やリラックスするなど、自分の時間に費やす。そんな両親の元で育った私は、兄も含めて家族が大好きだ。しかし、家事を手伝わない我が家の男どもを見ると、無性にイライラすることもある。私も母の負担を減らそうと、家事を積極的に手伝っている。だが、学校と所属しているサークルとバイトで手一杯で、どうしても帰るのが毎日遅くなってしまい、母の手伝いができない自分が嫌になるときがある。いつも、母には申し訳ない気持ちと感謝の気持ちでいっぱいだ。

母との関係

私と母は、とても仲がいい。二人でよく買い物に行き、服の趣味も似ているため、よくお互いに洋服の貸し借りをし、時間があるときは車を走らせて一緒にカフェでお茶をする。私たちは、家でも外でもいろんな話をする。母の仕事の愚痴や家族のこと、就職活動を控えている私は、将来のことや恋愛の話など、ほとんど隠さずに話している。そんな母は、恋愛の話になると決まって人一倍口うるさくなる。彼氏はできたのかという話から始まり、結婚や出産のことまで。いろんな男の人と遊んで見極める力をつけなさい、早く結婚したほうがいいなど、結婚に對して否定的な私にとつて、こういった話しはとても嫌だった。

両親の喧嘩

先日、仕事のことと母と父との間で大きな喧嘩が起きた。同じ職場で働いていることもあり、年に二、三回大きな喧嘩が起きる。物を投げ合い、お互いに怒鳴り散らし、一步も引かない両者。だが仕事上、会話をしなければならぬので、喧嘩の後はお互いぎこちない会話を交わす。それがきっかけか、大体いつも二週間ほどで落ち着くのだ。

しかし、今回の大きな喧嘩に、私まで口出ししてしまい、三人で喧嘩することになった。私は、普段からよく喧嘩する両親に對して疑問があった。それは、なぜ結婚をして幸せなはずなのに、お互い怒鳴り合い、いがみ合っているのだろうか。しまいには、

「父は犬みたいなもの。お世話してあげているの」。とまで母は言うほどだ。そんな父と一緒にいて母は嫌気が差さないのか、とても疑問だった。こんなにも言い争って、果たして幸せといえるのか。私は母に、「なんで、お父さんと結婚したの？　こういう喧嘩が起るのって、嫌じゃない？　仕事や家事に加え、喧嘩もして疲れない？　離婚しようとか思わないの？」と尋ねた。さらに、「やっぱり、私、結婚なんかしたくないや。そんなに結婚しろって言うなら、ちゃんと結婚が幸せだってことを証明してよ」と言い放った。そういうと母は、「好きで結婚したんじゃない。仕方なく結婚したのよ」と泣きながら話しはじめた。

母は長女だったため、家業を守ってくれる後継者が必要だった。母が結婚したいと思った相手は祖父に反対され、結局お見合いをして、言わば結婚させられたのだ。だから、私にはちゃんと恋愛をして、かつて自分が叶わなかった、恋愛結婚をして欲しいのだと。母は話を進めるに連れ、私がいい人と結婚できるように、教養を身につけさせるために、大学や留学にも行かせ、たまに洋服や化粧品も買って与え、身なりもきれいにさせたのは、いざ恋愛して結婚をする、いい相手を見つけて欲しいからだと言っていた。

正直、母の発言は驚きと共に、とてもショックだった。それは、母が今まであたかも、父と恋愛して結婚したかのように話していたからだ。また、母は私の将来に多くの選択肢やチャンスがあるように思っていて、大学や留学に行かせてくれたのではなく、単に、いい結婚相手を見つけて欲しいから大学に行かせたのかな

どと分かり、少しショックだった。

母はお見合い結婚をして好きな人と結婚できなかったから、娘には恋愛結婚をして幸せになつて欲しい、それを叶えて欲しいと思っている。きっと母は、今もなお、そんな主婦像に憧れを持ち、どこかでなれなかった自分に対して未練を感じているのかもしれない。しかし、私の思い描く理想像は母の思いとまったく反対だ。それは、大学一年生のときに入った学生団体をきっかけに、私は母の期待とは逆方向へとますます加速して行った。

フリーペーパー製作

私は、高校のときからファッション誌の編集をすることが夢だった。現在は留学などを通して将来の夢は変わったが、大学に入り、その予行練習としてフリーペーパーを製作する学生団体に所属した。一年生のときは、さほど責任感もなく活動していたが、学年が上がるにつれて責任感が増し、サークル内で必要とされていることを実感できた。それが嬉しくて、とても心地いい場所だった。

現在では週に三回ほどの活動、入稿日が近づけば授業が終わった後、終電の時間まで毎日活動している。正直、とてもきついと感ずることもたくさんあった。というのも、大学一年のときから留学を視野に入れていたため、フリーペーパー製作の活動に加えバイトもしており、資金を調達していた。

時には、学校の授業や課題などが重なり、何度も辞めたいと思った。サークルを辞めればたくさんさんの時間ができて、学校とバ

イトに時間を費やすことができる。そんな、サークルを辞めたい気持ちだがピークに達したときと半年間の留学がちょうど重なり、サークルから逃げるような形で留学生活が始まった。

留学中は、日本で送っていた学生生活とは違った充実感があった。日本では学校やバイト、サークル活動にと、目まぐるしい生活を送っていたからか、留学中は勉強もできて、出会った仲間ともたくさん遊び、大学生らしいことをたくさん楽しんだ。しかし何か物足りない。それはやはり、サークル活動であった。あれほど辞めたいと思っていたにもかかわらず、いざ活動から離れてしまうと、寂しくていつも気になっていた。

帰国後、日本での充実感とは、やはりサークルなしでは成り立たないと判り、帰国したと同時にサークル活動を再開した。三年生になると、リーダーを任されるようになり、今まで以上に責任やプレッシャーを感じつつ仕事をしていた。たくさん失敗して怒られ、自分の不甲斐なさに何度も泣いたが、その分もっと頑張ろうという気持ちになった。ここでの成功や失敗を繰り返すうちに、「ああ、これが将来社会に出で働くことなんだろうな」と感じ始め、大変だけど将来仕事をするのが一層楽しみになった。

恋愛に関しては積極的にはなれなかった。忙しさを理由に恋愛を避けて、恋愛するなら仕事をした方がいいという意識に変わっていった。もちろん、その間に彼氏もいた、好きな人もできた。しかし、毎日の忙しさに加え、恋愛をするのはとても面倒だった。彼氏がいると、定期的に会う時間を作らなければならない。

きつと一緒に過ごす時間の中で喧嘩もするだろう。そんな時間があるなら、趣味や遊びに費やす自分の時間が欲しい。だから、いつか結婚をして結婚生活に拘束される時間が増えるのであれば、結婚はせず、キャリアウーマンとして働く道を選びたいと思っている。

価値観の違い

最近、夜に帰宅してから母と将来について話し合う。母はまだ私が一般職で働く道を望んでおり、名古屋で暮らして欲しいと願っている。母は、私をその道に引きずり込もうと、いろんな情報を持つてくる。「○○さんの仕事、営業で毎晩遅く帰ってきて、自分のシャツにアイロンをかける時間もないらしいわよ。総合職は大変ね」とか、「将来、名古屋出て一人暮らしなんかしたら、お金なんて貯まらないわよ」とか。

しかし、私はやはり総合職として忙しく働きたいという気持ちが大きく、名古屋にもずつと留まっていたくない。だからといって、母の意志を全く無視するような形で、一人突っ走っていくのも不安なのは確かだ。

就職活動を数か月後に控えた今、自分の将来について以前にも増して考えるようになった。自分の思い描く将来と、母が思い描く私の将来が矛盾している中、いったい私はどうすればいいのか今はまだ分からずにいる。今後、話し合いをもちろん進めて行くが、もし説得できなかつたとき、私は親の期待通りの道を歩まなければならないのか。

しかし、仮に私が母の元を離れ、仕事や家事で疲れている母の愚痴を吐き出せる相手がなくなったら、寂しい思いをするのではないか、などと考えてしまう自分もいる。こうして、自分の理想と母の期待に挟まれ、結論はまだ出ないままである。